

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項				
基本目標	2 読書に親しむ環境づくり			
施策	(3) 読書バリアフリーの推進			
施策の方向性	誰もが利用しやすい図書館を目指し、館内設備やバリアフリー資料等の充実、及び支援が必要な人に対するバリアフリーサービス、多文化サービスの拡充を図ります。また、より多くの人のサービス利用を促進するため、周知の強化を図るとともに、サービスを提供・支援する人のスキル向上に取り組んでいきます。			
主な取組	①館内設備の充実			
	②バリアフリー資料の充実			
	③バリアフリーサービスの充実			
	④多文化サービスの充実			
成果指標	バリアフリーサービスの認知度	策定時点	目標値(R9)	
		17.0%	20.0%	
D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R4)	目標値(R5)
	バリアフリー資料の充実	バリアフリー資料の蔵書数	2,393冊	2,030冊
	外国語コーナーの充実	外国語資料の蔵書数	1,912冊	1,920冊
主な取組の実施状況 及び 今後の方針 ◎期待以上 ○期待どおり △もう少し	①館内設備の充実		達成状況	
	◆図書館ではルーペやリーディングトラッカーのほか、据置型拡大読書器の貸出を行っているが既存の機器が古くなり操作が複雑であることから令和5年度に新たな携帯型拡大読書器への更新、及び助聴器、折り畳み式図書用カート、翻訳機等用iPadの購入を行い、館内設備の充実を図っていく。		※令和4年度は計画対象外	
	②バリアフリー資料の充実		達成状況	
	◆図書館では新たにLLブックやバリアフリー絵本を購入した。あまり認知されておらず対象者の利用に繋がっていないことから、より利用者の目に触れやすい位置へ移設したり、学校配本として特別支援学級へ貸出した。今後も積極的な資料の充実と対象者やその支援者等へのPRを行っていく。 ◆そもそもの刊行数が少ないため、必要に応じて、県立図書館の資料等を活用しながら、各利用者のニーズに応じた提供を行っていく。		○	
	③バリアフリーサービスの充実		達成状況	
◆図書館ではバリアフリーサービスとして、特別支援学級等に対する読書補助具や布の絵本等の備品貸出、施設見学の受入れ、工作付きおはなし会を実施している。対面朗読についてはこれまで利用実績がなく実践経験のある職員がいない。バリアフリーサービス全体の認知度が低いため、対象者へ情報が届くよう周知を強化していく。 ◆市では、障がい福祉サービスとして視覚障がいのある人に対して日常生活用具の給付事業を行っているが、読書支援ツール(点字図書、活字文書読上げ装置、拡大読書器等)の令和4年度給付件数はなかった。ボランティア団体と連携して、令和4年度は朗読の会「文鳥」1件(3冊)、虹の会1件(12冊)、点訳サークル「あゆみの会」0件の資料作成依頼を行った。		△		
④多文化サービスの充実		達成状況		
◆図書館の多文化サービスコーナーに対訳で書かれた資料や外国語資料、児童コーナーに外国語絵本を配架しており、今後も資料の充実を図っていく。またコミュニケーションボードを導入し、必要に応じて活用している。令和5年度に翻訳アプリの導入と英語・中国語・韓国語での利用案内の更新を行う。		※令和4年度は計画対象外		

C 評価

推進委員会
評価

問題なく実施されている。取組によって課題は見受けられるものの、各主体で今後の方針も考えられている。ぜひ記載されているとおりに継続して取り組んでほしい。

検討が
必要な事項

なし

A 改善

改善に向け
た取組等